2025 年度 事業報告

2025 年度は、 日本パラカヌー連盟はロサンゼルス 2028 パラリンピック競技大会を視野に入れ、更なる成長と飛躍を遂げるための基礎を築く重要な年と位置づけていました。

そして、より高い競技力と安定した支援体制の必要性も明らかとなり、これを受けた持続可能な強化と運営体制の整備が急務でした。

2025 年度、改定されたガバナンスコードへの適合に取り組みました。規程整備や外部専門人財との連携を 通じて組織基盤の一層の強化を図りました。

選手層の拡充と次世代選手の発掘・育成を重点として、各種体験会、J-STAR 事業、自治体との協働による人財発掘など、全国規模での展開を推進しました。

強化の現場では、巡回指導の充実やナショナルチームのチームビルディングを重視し、個々の選手に最適な支援を行いました。

競技の魅力と社会的意義を広く伝えるべく、マーケティング・広報活動の刷新を進め、外部の専門企業・専門家との連携により、公式 HP や SNS の戦略的活用を一新するために準備をしています。

選手の情報発信力向上、そして企業連携の強化を通じ、協賛企業の開拓及び共創体制の構築に努力しました。**「水の上は究極のバリアフリー」**という理念のもと、すべての人が可能性を信じ挑戦できる社会のさらなる発展を目指してまいります。

1. 理事会

- 定例理事会 計 11 回 開催
- 臨時理事会 計 2 回 開催

＜主な議題＞ □ 連盟の運営に関する事

事業運営に関する事項（事業計画・予算、組織体制・運営、人事、規程改定等）

2．委員長ミーティングの開催

- 委員長ミーティングを毎月第一水曜日 20 時からオンラインで開催し、
  各委員会間の情報共有を図った。

３．各部/委員会 報告

１） 強化部 事業報告

2025 年度は、パリ 2024 大会終了後、新たなサイクルのスタートとなる年度であり、ロサンゼルス 2028 大会およびブリスベン 2032 大会を見据えた強化活動に取り組んだ。
選手の経済的・身体的負担軽減と強化活動の効率化を目的として、各地の練習拠点における巡回指導機会の創出を目指した。しかしながら、計画的かつ組織的な巡回指導体制の構築には至らず、ヘッドコーチおよびコーチがそれぞれの活動の中で個別に対応する形となった。今後は強化費の活用方法も含め、継続的な巡回指導体制の整備が課題である。

ナショナルチームのチームビルディングおよび競技力向上を目的として、ワールドカップおよび世界選手権前に木場潟 NTC で集合合宿を実施した。代表選手全員が参加できたわけではなかったものの、国際大会に向けた調整および情報共有の機会として一定の役割を果たした。

国際大会においては、
瀬立選手が、ワールドカップ【VL1 優勝、KL1 第 4 位】、世界選手権【VL1 第 3 位、KL1 第 6 位】。
高木選手が、ワールドカップ【VL1 優勝、KL1 第 7 位】、世界選手権【VL1 第 5 位】という成績を収めた。
強化部としては、今後とも選手の活動と競技成績の向上を支える環境整備に努めていきたい。

連盟内の各委員会との連携については、クラス分け委員会、アンチ・ドーピング委員会、医科学委員会等の協力を得て、J-STAR 発掘選手から日本代表選手までを対象とした研修会を実施した。選手および関係者の知識向上と意識啓発に繋がる機会を設けることができた。

次世代選手の発掘については、J-STAR 事業を活用し、有望な選手 2 名を発掘することができた。一方で、居住地域における練習環境や指導体制の整備には課題が残っており、育成環境の地域格差も含めて継続的な取り組みが必要である。

医療機関やリハビリテーション施設との連携による新たな選手発掘ルートの構築については、十分な進展には至らなかった。今後も JPSA や地域パラスポーツ関係者等との連携を図りながら可能性を模索していきたい。
国際大会における選手サポート体制については、クラス分けや競技スケジュールへの対応などにより、必ずしも全選手に均一なサポートを提供できたとは言えず、今後の改善課題として認識している。
安全管理については、日常のトレーニング、合宿、公式大会の全てにおいて重要な課題である。特に 2026 年

3 月の府中湖代表選考会では、日本ライフセービング協会から助言を受け、緊急時対応体制の確認、装備情 報の共有、救助艇の配置等を実施し、安全管理体制の向上を図った。

総括として、2025 年度は国際大会において一定の成果を上げることができた一方で、巡回指導体制の構築、人材発掘ネットワークの拡充、国際大会サポート体制の充実など、多くの課題も明らかとなった年度であった。今後は選手や現場スタッフの努力に支えられた活動をより持続可能な仕組みへと発展させ、ロサンゼルス 2028 大会およびブリスベン 2032 大会を見据えた強化体制の整備に取り組んでいきたい。

２）トレーナー委員会 事業報告

<国際大会帯同>フィジカルコンディショニング・ケア、トレーニングサポート、乗艇補助など

1 2025 ワールドカップ事前強化合宿 木場潟 NTC(4 月 20～23 日)

2 2025 ワールドカップ ポーランド(5 月 15~27 日)

3 2025 世界選手権 イタリア(8 月 15～26 日)

<トレーナー委員会オンラインミーティング>

第 1 回ミーティングリモート(ZOOM)

4 月 28 日(月) 20 時 30 分 ～ 21 時 30 分 参加者(10 名)

・2025 年度専任スタッフ紹介

・パラスポーツトレーナー推薦者の選考

・年間事業計画共有

第 2 回ミーティングリモート(ZOOM)

8 月 5 日(火) 20 時 00 分 ～ 21 時 00 分 参加者(9 名)

・ワールドカップの報告

・部会内勉強会(パラカヌー選手サポートの技術・知識の共有/水難事故対応・救助方法・安全対策について 講師:JPCF トレーナー委員会 前田)

第 3 回ミーティングリモート(ZOOM)

・11 月 19 日(水) 20 時 00 分 ～ 21 時 00 分 参加者(8 名)

・世界選手権の報告

・部会内勉強会(国際大会帯同に伴う準備について 講師:JPCF トレーナー委員会 前田)

第 4 回ミーティングリモート(ZOOM)

3 月 18 日(水) 20 時 30 分 開催予定

・2025 年度事業計画について

・次年度役員選出

３）技術委員会　事業報告

- **会議ミーティング**
  - ○ 11 月　9 日：技術委員会：・委員長・副委員長選出
  - ○ 12 月 11 日：技術委員会：情報共有
  - ○　1 月 24 日：強化部合同ミーティング（第 1 回選考方針について）
  - ○　1 月 27 日：技術委員会：情報共有
  - ○　1 月 29 日：強化部合同ミーティング（第 2 回選考方針について）
  - ○　2 月　4 日：技術委員会：情報共有
  - ○　3 月　8 日：技術委員会：情報共有
- **競技成績**
  - ○ 2025 ICF Paracanoe World Championships　イタリア・ミラノ

    2025 年 8 月 20 日～8 月 24 日
    - ■ MKL1 髙木裕太　13 位
    - ■ MKL2 辰己博実　15 位
    - ■ MKL3 林　侑平　32 位
    - ■ MVL1 髙木裕太　5 位
    - ■ MVL1 下野勝也　14 位
    - ■ MVL2 加藤隆典　16 位
    - ■ MVL3 朝日省一　19 位
    - ■ WKL1 瀬立モニカ　6 位
    - ■ WKL2 宮嶋志帆　13 位
    - ■ WVL1 瀬立モニカ　3 位
  - ○ 2025 ICF PARACANOE WORLD CUP

    2025 年 5 月 15 日～5 月 27 日
    - ■ MKL1 髙木裕太　7 位
    - ■ MKL2 小林　靖英　14 位
    - ■ MVL1 髙木裕太　**1 位 金メダル**
    - ■ MVL2 小林　靖英　14 位
    - ■ 加藤隆典 BF 10 位
    - ■ MVL3 朝日省一　18 位
    - ■ WKL1 瀬立モニカ　4 位
    - ■ WVL1 瀬立モニカ　**1 位 金メダル**

４） 医科学委員会 事業報告

医師：牛尾

（2025 年度の活動）

・2025 年度 JPC メディカルチェック選手 12 名

・選手の国際大会における体調管理・持参薬などについてトレーナー委員会と情報共有

・選手の使用薬物やサプリメントなどについてアンチドーピング委員会と情報共有

心理：門岡

（2025 度の活動）

・4 月に木場潟合宿に 1 日参加

→監督、コーチ、参加選手とコミュニケーションをとり、現状と今後の課題について確認した

・8 月に 200m 競漕イベントに参加

→例年、アンチドーピングのアウトリーチブースを金沢星稜大学学生と担当しているが今年度も担当.

→合間に、スタッフや選手とコミュニケーションをとり、現状と今後の課題について確認した.

栄養：古舘

（2025 年度の活動）

2026 年 1 月 31 日（土）20：00～21：15 J-Star 選手への栄養講話

（選手２名、スタッフ３名出席）

トレーナー：出田・屋敷・松本・前田

（度の活動）

・遠征時の健康・環境管理: 国際大会帯同における害虫対策や、新型コロナウイルス感染を含む選手のコンディション管理。

・トレーナー派遣と予算: 強化予算の制約に伴うトレーナー派遣の課題（※J-STAR 事業の予算活用が有効であった）。

・練習環境の確保: 安全確保の観点から、発掘選手の練習場所が限定されている問題。

５）アンチ・ドーピング委員会　事業報告

■ **委員会の発足と定例運営**

- 公募により委員を選出。理事会の承認を経て発足。
- 月 1 回の WEB ミーティング（計 12 回）を開催し、情報共有を実施。

■ **JPC 対応**

- 事務局と協働し JPC のアンチ・ドーピング関連の事案に対応。
- 教育関連会議・研修会への出席：
  ・2026/2/4　アンチ・ドーピング担当者連絡会議（本田、泉谷、磯部）

■ **JADA 対応**

- 2024 年に加盟した JADA との窓口としてアンチ・ドーピング関連の事案に対応。
- 教育年間計画（2025 年度）を作成し、年度末に報告書を提出。
- 日本パラカヌー連盟日本代表チームの 2025 年度合宿情報および国際大会への派遣情報の報告。
- 教育関連会議・研修への出席：
  - 11/4　アンチ・ドーピング教育担当者会議（本田、磯部）
  - 12/19　アンチ・ドーピングカンファレンス（佐々木）

■ **使用薬物調査（医科学委員会・強化部と協働）**

- 連盟に加盟する選手に対し、スポーツファーマシスト 4 名による使用薬物調査を実施し、各選手への助言フィードバック。

■ **ドーピング検査報告の収集**

- 選手からの検査報告を収集。
- アンチ・ドーピング教育研修会で選手へ情報フィードバック。

■ **アンチ・ドーピング教育研修会の実施（計 3 回）**

- ① 4/20：日本代表選手 A/B/C・スタッフ対象
- ②2026/ 3/16・3/20：2026 年度日本代表選手選考会出場選手・スタッフ対象

■ **アンチ・ドーピング啓発活動の実施**

- 8/11　第 8 回全国 200m競漕の会場・木場潟カヌー競技場にてブース設置。
- アンチ・ドーピング啓発活動を磯部・今井の 2 名で担当。

■ **アンチ・ドーピング委員会独自のアスリート用お薬手帳の作製**

- 日ごろの服用薬剤を記録する一般的なお薬手帳の機能に加え、サプリメント服用や試合前の使用薬剤の記録、アンチ・ドーピング委員会への相談窓口 URL、2026 年禁止薬物を自分で調べられる G-DRO や JSPO 使用可能薬剤リスト URL を記載したアスリート用お薬手帳を作製し、連盟加盟選手に配布。アンチ・ドーピング研修会にて選手に手帳の活用方法を説明。

■J-Star 事業におけるアンチ・ドーピング教育の実施

6) クラス分け委員会　事業報告

1. オンラインミーティング

- **4 月 10 日（20:00～20:30）**

【事業名】 第 1 回クラス分け委員会ミーティング

【方法】 リモート

【内容】

① 2025 年度委員継続の意思確認および委員長・副委員長選出

② 2025 日本代表選手選考会の報告および課題共有

③ 国際クラス分け対象選手の共有

④ 2025 年度活動計画の確認

- **8 月 26 日（20:00～21:00）**

【事業名】 第 2 回クラス分け委員会ミーティング

【方法】 リモート

【内容】

① 2025 日本選手権大会への派遣委員の検討

② ICF PARACANOE CLASSIFIER TRAINEE WORKSHOP への参加委員の検討

③ クラス分け委員会ポロシャツ作成の検討

- **10 月 7 日（20:00～21:00）**

【事業名】 第 3 回クラス分け委員会ミーティング

【方法】 リモート

【内容】

① 任期中のクラス分け委員辞任について

② 2025 日本選手権大会の報告と課題共有

③ ICF PARACANOE CLASSIFIER TRAINEE WORKSHOP への参加委員および協力選手の確認

④ J-STAR 事業集合合宿への派遣委員の検討

⑤ クラス分け委員会ポロシャツ作成の検討

⑥ 過去レース動画を用いた検討会

- **2 月 5 日（20:00～21:00）**

【事業名】 第 4 回クラス分け委員会ミーティング

【方法】 リモート

【内容】

① ICF PARACANOE CLASSIFIER TRAINEE WORKSHOP の報告

② 2026 日本代表選手選考会への派遣委員の検討

③ J-STAR 事業での集合合宿の報告

④ LA28 Paralympic Games – Paracanoe Qualification Ranking の情報共有

⑤ 東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラムへの派遣委員の検討
⑥ 令和 7 年度クラス分け NF 担当者連絡会議への参加報告
⑦ 2026 年度クラス分け事業計画の検討

2. 競技会内国内クラス分け

- **2025 年 9 月 12-14 日**

【事業名】 2025 年日本パラカヌー選手権大会におけるクラス分け業務
【業務】 競技会内における現地クラス分け
【開催場所】 石川県、木場潟カヌー競技場
【派遣委員】 川崎、今井、四登
【対象者】 エントリー20 名（うちクラス分け 6 名・7 種目）
※ 「JPC 国内クラス分け支援事業」の助成金を活用し委員を派遣

- 2026 年 3 月 27-29 日

【事業名】 2026 パラカヌー日本代表選手選考会におけるクラス分け業務
【業務】 競技会内における現地クラス分け
【開催場所】 香川県、府中湖
【派遣委員】 川崎、四登、今井
※ うち、2 名は競技役員として登録、1 名は自費参加
【対象者】 エントリー20 名（うちクラス分け 2 名・2 種目）

3. ICF PARACANOE CLASSIFIER TRAINEE WORKSHOP

- 2025 年 10 月 10 日～12 日
- 石川県小松市木場潟
- 講師 4 名、受講生 14 名（タイ、シンガポール、韓国、中国、インド、ニュージーランド、パナマ）
- 日本：3 名（Medical 1 名、Technical 2 名）が Level3 認定

4. 国内クラス分け講義・教育

- 5 月 8 日（第 1 回）、5 月 13 日（第 2 回）
- リモート形式（各回約 1 時間）
- 強化部からの依頼により、選手およびスタッフを対象に実施
- 参加者管理は、強化部にて実施

5. 国際大会前対応（国内クラス分け・書類提出）

- 2025 POZNAN WORLD CUP

【国内エントリー選手】 6 名（うちクラス分け対象 5 名）
【クラス分け書類提出締切】 4 月 18 日

【クラス分け期間】5 月 18-20 日
【レース期間】5 月 22-25 日
【特記事項】複数選手の競技ステータスが「Confirmed」に変更

- 2025 ICF CANOE SPRINT & PARACANOE WORLD CHAMPIONSHIPS

【国内エントリー選手】8 名（うちクラス分け対象 2 名）
【クラス分け書類提出締切】7 月 16 日
【クラス分け期間】8 月 16-18 日
【レース期間】8 月 20-24 日
【特記事項】国内競技クラスと異なる判定があり、Protest により競技クラスが再変更

6. J-STAR 事業・選手発掘事業

- 全地区エントリーから一対象者を抽出し、基礎測定への委員派遣
- J-STAR 集合合宿への委員派遣および事前評価の実施
- 東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム、チャレスポ TOKYO への委員派遣

7. JPC クラス分け従事者向け研修会（Web）

- 第 1 回 5 月 16 日、第 2 回 9 月 16 日、第 3 回 11 月 26 日、第 4 回 1 月 30 日

〈総括〉

本年度は、約 3 か月ごとに定期的な委員会ミーティングを実施し、情報共有および事業報告を継続的に行った。過去のレース動画を活用した検討会は 1 回の実施にとどまったが、今後は委員のスキル向上を目的としたリモート研修の充実を図る必要がある。

競技会内における国内クラス分けでは、安全かつ円滑な運営を目的として、選手の練習状況やレスキュー体制等に関する事前アンケートを実施し、装備状況の確認および競技運営との情報共有を試行した。これにより一定の成果が得られた一方で、運用面での課題も明確となった。日本選手権では「国内クラス分け支援事業」の助成金を活用し委員派遣を行ったが、業務調整や体調不良、天候不良の影響により 2 パネル体制での実施が困難となり、体制整備の重要性が改めて示された。

ICF Paracanoe Classifier Trainee Workshop が国内で開催され、日本から 3 名が Level3 認定を取得したことは、次世代クラシファイア育成における重要な成果である。一方で、アジア圏における上位資格保有者は依然として不足しており、国際資格取得の推進および各国との連携強化が今後の課題である。

選手および支援者を対象としたクラス分け講義を実施したものの、参加率は十分とは言えず、特に強化部を含めた関係者全体への浸透には課題が残った。クラス分けに関する理解の深化はドーピング対策と同様に不可欠であり、今後も継続的な教育機会の確保が必要である。

国際競技会においては、競技クラス変更が生じた選手に対し、国内で初めて Protest を実施し、事前に準備した医学的情報を基に対応することで、国内と同様の競技クラスへ再変更し出場することができた。この経験から、国際クラス分け対象者に対する事前準備の重要性が再認識され、今後は帯同スタッフとの連携のもと、Protest を含めた戦略的対応を標準化していく必要がある。

7）【女性スポーツ委員会】

◆JPC 女性スポーツ委員会との連携 ・相談、各種支援の申請の取りまとめの実施
◆JPC 主催女性パラアスリート、スタッフ向け研修会の参加
◆女性アスリートに対する教育・啓蒙活動の実施（強化指定選手・育成選手含む）
◆アンケート作成並びにヒヤリングの実施・相談しやすい環境づくりのため他委員会と連携し進める。

8）アスリート委員会 事業報告

◆アスリート委員会の開催
４月、８月（日本選手権前）、
11 月、３月（海外派遣選手選考会前）の４回開催
＊競技活動、普及活動、連盟運営等に関する事項及び各種情報共有する。
◆その他 ・連盟内各委員会との連携、情報共有を実施する。
・ＪＰＣアスリート委員会、ＷＡＤＡ、ＪＡＤＡなど、外部団体の情報共有を実施する。
・普及委員会、連盟事業と連携・協力して選手の発掘、練習場所の開拓。

9 ）普及部【普及委員会】

◆主な活動実績 ・パラカヌー体験会＆パラサポーター講習会、
委託事業の普及活動等
◆2025 年度の目標 ・パラカヌー体験会の継続実施
・パラサポーター講習会の継続実施
・パラサポーターの育成と受講後のフォローと再受講の実氏
・アスリート委員会との連携協力による選手派遣、選手の練習拠点での普及活動
◆委託・協力事業 ・東京都多摩障害者スポーツセンター
「パラカヌー教室」（多摩障害者 SC） ・東京都障害者スポーツ協会「チャレスポ TOKYO」
・佐倉カヌー協会「パラカヌー体験会」（佐倉ふるさと広場）
・岩渕薬品 「パラカヌー体験会」他（佐倉ふるさと広場）
◆パラカヌー体験会やサポーター講習会等へのスタッフ・サポーターの派遣
・協力依頼や各種要請に可能な範囲で、安全で楽しめる事業の運営にスタッフを派遣し協力

10）マーケティング・広報部　【マーケティング・広報　事業報告】

・外部委託企業と連携し、今後のマーケティング活動の主軸となるようなゴールドパートナー企業を獲得し、アクティベーションに注力することで協賛企業獲得のための環境整備を行い、今後の収益基盤の強化を図る。

・主に普及活動を通じ各自治体とのパイプラインを太くし、スポンサーとなりうる地元企業との連携を図る。

【マーケティング事業】

・スポンサー/ファン獲得のために連盟の発信力を強化。Web サイト・全ての SNS を連動した情報発信により、環境/集客基盤を整備

・普及/強化活動と連動した積極的な情報発信により、大手/地元企業にも届く体制を構築

・定量/定性調査により認知度を把握、スポンサー/ファン獲得につなげるための訴求軸をアップデート

【広報事業】

・発信/集客の軸となる Web サイトの情報を整備し、ユーザーインターフェースを大幅に改善

・広報/PR に関する情報発信を Web サイト/SNS を連携の上で、競技情報を中心に発信し、サイト訪問者数/SNS フォロワー数増加

・新聞社/放送局/記者への定期的な情報発信